

札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会

第4回総会

議 事 録

日 時：2022年5月26日（木）午前9時30分開会

1. 開 会

○石井会長 定刻になりましたので、ただいまより札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会第4回総会を開催させていただきます。

初めに、出席状況及び資料についての説明を事務局からお願いします。

○事務局（小山内生活環境課長） 札幌市保健福祉局保健所生活環境課長の小山内でございます。

本日は、大変お忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

まず、議事に入る前に、委員の交代がありましたので、ご紹介いたします。

一般社団法人北海道造園緑化建設業協会の役員変更に伴いまして、これまで参画していただいた古瀬委員に代わり、今回から北原委員が参加されております。よろしくお願いいたします。

また、市側についても、4月の人事異動に伴い、人が半分ぐらい入れ替わりましたので、簡単にご挨拶をさせていただきます。

○事務局（金網生活衛生担当部長） 保健所生活衛生担当部長の金網と申します。

昨年は、運営計画の策定について貴重なご意見をいただき、大変ありがとうございました。今年度から運営計画を進めてまいりますので、引き続きお力添えを賜ればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（小山内生活環境課長） 生活環境課長の小山内です。2年目になりますが、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（大河原施設課長） 施設課の里塚斎場の大河原と言います。よろしくお願いいたします。

○事務局（中村企画担当係長） 企画担当係長の中村と申します。この4月に着任いたしました。よろしくお願いいたします。

○事務局（鷲尾斎場担当係長） 斎場担当係長の鷲尾と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（小野寺墓園管理係長） 高谷の後任で4月から着任いたしました墓園管理係長の小野寺と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（岸霊園管理担当係長） 霊園管理担当係長の岸と申します。昨年に引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（小山内生活環境課長） 改めまして、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、委員の出席状況ですが、中島委員が欠席となりますので、10名での開催となります。

本日の会議は、事前にお申込みをいただいた1名の方と報道機関の1社がウェブ会議を傍聴しておりますことを申し添えます。

なお、会議資料や議事録は、従前どおり、ホームページにて公開いたします。

続きまして、本日の会議についても、新型コロナウイルス対策のため、ウェブ会議形式

で開催させていただきます。前回に引き続き、発言ルールについて確認させていただきます。

一つ目として、発言時以外はマイクをオフにさせていただきたいと思います。二つ目として、発言したい際は挙手をお願いいたします。三つ目として、発言する際にはお名前を名乗ってからお願いしたいと思います。

続きまして、お手元の資料を確認いたします。

本日使用する資料は、事前に郵送させていただいておりますが、上から順に、会議次第、委員名簿、資料1として第3回総会における各委員からの意見及び修正等について、資料2としてパブリックコメントの実施結果について、資料3として令和4年度の協議会開催スケジュール、資料4として運営計画事業進行スケジュール、資料5として今後の意識醸成の取組となっております。不足等はございませんでしょうか。

○佐々木委員 ファイルはもらいましたが、郵便物は届いていません。

○事務局（中村企画担当係長） 申し訳ございません。後日、改めてお送りさせていただきますので、電子ファイルで恐縮ですが、よろしくをお願いいたします。

○事務局（小山内生活環境課長） 事務局からは以上となります。

2. 議 事

○石井会長 それでは、早速、議事に入ります。

議事（1）の運営計画策定に係る報告等について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（中村企画担当係長） 初めに、委員の皆様には、運営計画の策定に当たり、多大なご尽力をいただきましたことにこの場を借りて改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

運営計画は既に皆様にお配りしておりますので、ここでは計画完成前の最後の協議会となりました第3回総会以降の経過について簡単にご説明いたします。

資料1をご覧ください。

昨年の10月6日に開催いたしました第3回総会では、資料に示しておりますとおり、皆様からご意見を頂戴し、計画案への反映などを行いました。その後、資料はございませんが、庁内関係課による会議、市長への説明、議会報告を行った後、資料2のとおり、12月から1月にかけてパブリックコメント手続を実施し、計画の完成となりました。

完成した運営計画の本書については、市役所本庁舎、各区役所、各区社会福祉協議会などに配付していますほか、概要版は各区のまちづくりセンターにも配付しております。

○石井会長 運営計画については、既に完成しておりますし、各委員にも送付されているかと思います。事務局には簡略な説明をお願いしておりましたが、ただいまのご説明に関し、ご質問等がございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○石井会長 それでは、議事を先に進めさせていただきます。

議事（２）の令和４年度の協議会スケジュールについて、事務局からご説明をお願いします。

○事務局（中村企画担当係長） 資料３をご覧ください。

この資料の横軸は、今年３月から来年３月までを月別に区切ったものとなっています。上から３段目に総会、その下に火葬場部会、さらにその下に墓地部会の予定を記載しております。それぞれの枠の中に記載しているのは現在想定している議題でございます。

ここで資料の訂正がございます。本日の第４回総会の黒ポツの２点目に火葬場・墓地に関する現状の取組と今後の方向性と書いてありますが、本日の議事（２）となりますので、訂正させていただきます。今、画面にお示ししているものです。

それでは、資料に戻りまして、会議のスケジュールについてですが、本日の第４回目の総会后、７月から８月にかけて火葬場と墓地のそれぞれの部会を各１回開催し、今年の１２月に総会をもう一度開催したいと考えております。

上から２段目をご覧ください。

第１期の協議会委員の皆様の任期は、今年の１２月いっぱいまでとなっております。来年１月からの第２期協議会の発足に向けまして、市民公募や関係団体への委員推薦の依頼などの手続を進めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

その後、年が明けてからは、皆様もご多忙とは思いますが、総会と各部会を１回ずつ開催したいと考えております。

ここで、協議会の役割について改めてご説明させていただきます。

この協議会では、これまで、運営計画の在り方や事業の内容について、様々な議論や意見、そして、ご検討をいただいてまいりました。今後は、運営計画の第４章の「運営計画の進行管理等について」に記載されていますとおり、運営計画に基づいて実施する取組の進捗に関し、専門的な立場から意見や評価をいただく場としての機能を担っていただくこととなります。

また、市民の意識醸成のための働きかけという役割もありますので、これについては議事（４）で改めてご説明いたします。

○石井会長 ただいま令和４年度の協議会スケジュールについてご説明をいただきました。今年度の総会と各部会の開催スケジュールについて皆様からご意見やご質問はございませんでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○石井会長 基本的には、運営計画の実施に関わる進捗管理と、もともと総会固有の取組として意識醸成も担ってきたかと思うので、その柱立てで総会を進めていくとともに、二つの部会がそれぞれの課題への対応を進めていくことになろうかと思っております。

改選期がちょうど年度に重なることから総会の回数が増えています。時間設定等、柔軟に対応できるように考えていきたいと思っています。

よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○石井会長 それでは、今年度の協議会の開催についてはご提示していただいたスケジュールを基に進めさせていただければと思います。

続きまして、議事(3)の運営計画に基づく事業の進行計画について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局(中村企画担当係長) 資料4をご覧ください。

この資料の横軸は、運営計画の期間である2022年度から2025年度までを四半期ごとに区切ったものと次期計画期間である2026年度の上半期までを示しております。

一番左の列には、基本構想に掲げる三つの目標ごとに枠を設けまして、それぞれ運営計画に掲げる④から⑩までの15の取組を記載しております。

各事業は、取組の段階に応じ、白から黒までの4種類の矢印を用い、どの時期に何をするかを記載してございます。なお、この矢印は、運営計画に記載したものと同一使い方となります。

また、一部の矢印の左側に3本の縦線が入っているのは、その取組の開始時期が現段階ではっきりと確定していないものとなりますが、おおむね記載した時期には開始したいと考えております。

それでは、基本目標①の意識醸成については、次の議事(4)でご説明しますので、基本目標②の火葬場関係について担当からご説明いたします。

○事務局(鷲尾斎場担当係長) 基本目標②の火葬場関係について、私からご説明させていただきます。

火葬場関係の取組としては、③から⑩の六つの取組を挙げておりますが、この中で重点としている取組は、④の火葬場の友引開場と⑥の火葬場の予約システムの導入の二つになりまして、今年度は特に⑥に重点を置いて取り組んでいきたいと考えております。

具体的には、2022年度中にシステムの仕様を固め、2023年度にはシステムの構築、試行実施と進んでまいります。そして、2024年度からは本格実施できるようにスケジュールを組んでおります。

また、このシステムの導入効果を踏まえ、その上の⑥の火葬場の友引開場の内容を検討し、2025年度からの本格実施を目指すことを考えております。

続きまして、重点項目ではありませんが、今年度に優先的に進めていく取組の一つとして、⑥の火葬場の運営手法の検討がございまして、これは山口斎場の次期運営に向けての取組ですが、2022年度は譲渡前検査の実施を予定しております。これは、山口斎場の建物や設備等が支障のない状態であるか等を事前に検査するもので、この検査の内容を受け、2023年度から2024年度にかけて、次期運営に向けた具体的な事業期間や事業費、内容等を検討してまいります。そして、2025年度の事業者選定、2026年度の新事業の開始につながられるよう進めていく予定です。

その他の取組につきましても資料に記載のスケジュールで進めてまいります。

○事務局（中村企画担当係長）　続きまして、基本目標③の墓地関係について、担当からご説明いたします。

○事務局（小野寺墓園管理係長）　目標③の墓地関係の進行計画についてご説明させていただきます。

現計画上の墓地関係の取組は①から⑩の七つとなりますが、マンパワーなどの経営資源が限られる中で掲げた目標を達成するためには、優先して取り組むべきもの、あるいは、取り組まなければならないもの、他の取組との関連から、今すぐにはではなく、計画期間内の後年次に開始時期をずらすものなど、優先度をつけて計画を進めていく必要があると考えているところでございます。

こうしたことから、計画の初年度となる今年度は、資料のとおり、現計画で重点に位置づけられております①の市営霊園及び旧設墓地の無縁墓への対応と⑨の市営霊園の新たな管理料制度の二つのほか、重点項目とはなっておりませんが、①の合葬墓の運用方法につきましては、現時点で具体的な事業進捗がありますので、これらは矢印の左側に3本の縦ラインを入れず、今年度に優先的に取り組んでいきたいと考えております。

今年度の優先取組の一つ目である①の市営霊園及び旧設墓地の無縁墓への対応については、上下に二つの矢印がありますが、上段の矢印は令和3年度から実施しております戸籍調査についてであり、これは令和4年度以降も引き続き実施することとしております。調査の結果により新しい住所が分かった方へは住所変更手続の案内を、使用者が亡くなっているケースでは、親族調査を行いつつ、お墓にご連絡を促すプレートなどの設置を進めることで、使用者や縁故者と連絡がつく状態を築き上げていきたいと考えております。

下段の矢印のいわゆる無縁墓への対応については、現時点では今計画期間内に無縁公告等の試行実施まで行っていきたいと考えておりますが、改葬や墓石の撤去は適切な手順を踏む必要がありますので、今年度は他都市の制度や取組を参考にしながら対策手順を検討していきたいと考えているところです。

①の合葬墓の運用方法については、私の説明の後、岸霊園管理担当係長より別途説明させていただきます。

次に、⑨の市営霊園の新たな管理料制度についてです。

これまで市営霊園の使用開始時のみ徴収してきた清掃手数料については、20年を経過している墓地使用者から清掃手数料に代わる新たな手数料を徴収することなど、現計画期間中に新しい管理料制度の内容を決定することとしております。今年度は、徴収対象となる方の特定から着手し、その後、新たな手数料制度の設計の取組を始めていきたいと考えています。

また、さきの①の取組と関連しますが、相続等の事務手続が必要な方への案内なども並行しつつ、将来的な新管理料制度の運用開始に向け、各種準備作業に取り組んでいきたいと考えているところです。

このように、現計画の初年度は、ご説明した項目に優先的に取り組む考えです。その一方で、皆様の中には、矢印がないところは札幌市としては何もしないのか、これまでせっかく議論してきたに、何だったのかと疑問に思われる方もいらっしゃるかもしれません。ただ、矢印なしは、何もしないということではなく、情報の収集などは続けていきたいと考えておりますので、ご理解をいただければと存じます。

それでは、㊦の合葬墓について、霊園管理担当係長の岸よりご説明させていただきます。
○事務局（岸霊園管理担当係長） 私から合葬墓の運用方法についてお話をさせていただきます。

合葬墓の利用条件についてですが、第1回から第5回の墓地部会において、札幌市民としてお亡くなりになった方の遺骨を管理する市外在住の親族についても受入れを拡大することで了承をいただいたと認識しております。

その際、多様な家族形態の変化についても考慮すべきとのご意見をいただき、運営計画の新合葬墓の運用方法にて利用条件の整理を掲げておりますので、早速、第6回墓地部会から検討を行っていただく予定となっております。

また、新合葬墓の新增設については、候補地の検討を既に手がけておりまして、進捗状況等を報告させていただきたいと考えております。

○事務局（中村企画担当係長） 事務局からの説明は以上でございます。

○石井会長 ただいま運営計画に基づく事業の進行計画についてご説明をいただきました。これまで議論してきた運営計画の具体的な施策の展開スケジュールについて、重点もきちんと打ち出していただき、順次、検討を進めていくということでありました。

委員の皆様からご意見やご質問がございましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○高橋委員 事務局に質問が二つあります。

まず、火葬場について、㊦の火葬場の運営手法の検討のところの譲渡前というのはどういう意味なのか、また、墓地について、㊧の民間墓地・納骨堂に対する指導等にある新様式による調査開始の新様式というのはどういうことなのかを聞きたいと思います。

○事務局（鷲尾斎場担当係長） 火葬場関係の㊦の譲渡前の意味についてです。

現在、山口斎場の施設の持ち主はPFIの事業者となっております。事業期間満了に伴い、札幌市に施設が譲渡されるのですが、譲渡される前段階で設備等に問題がないかを確認する必要があるため、譲渡前検査を実施します。ですから、譲渡というのは、権利がPFIの事業者から札幌市に移るという意味合いです。

○事務局（中村企画担当係長） 続きまして、2点目の㊧の新様式による調査開始については、民間墓地・納骨堂に対する指導等という見出しにしておりますが、実際の対象は納骨堂となります。

札幌市では、条例に基づき、年に1回、経営状況報告をしていただいているのですが、その中で、これまでよりも詳しく経営状況を把握し、課題があるようであれば、こちらか

ら指導をしていくというもので、山上委員にもご参画いただいております墓地等財務状況審議会でご検討をいただく中身となっております。

○石井会長 ほかはいかがですか。

(「なし」と発言する者あり)

○石井会長 これも基本的にはそれぞれの部会でさらに議論をしていくことになろうかと思っておりますので、今年度はこんな段取りで具体の作業を進めていくことについてご了解をいただければと思います。

それでは、議事(4)の今後の意識醸成の取組について、事務局からご説明をお願いします。

○事務局(中村企画担当係長) 資料5をご覧ください。

先ほどの繰り返しになりますが、この協議会は、市民の葬送についての意識醸成の取組を協議、実践する場となります。ここでは、昨年度の取組をご報告した上で、今年度の取組予定や来年度以降の取組の方向性について協議をさせていただければと思います。

資料の上段をご覧ください。

運営計画におきましては、意識醸成に関する成果指標を葬送に関する行動をしている市民の割合としました。現状では38.6%となっているところを2025年度には50%となるよう取組を進めていくこととしております。

その下の左側の令和3年度の取組をご覧ください。

昨年度は、南区と清田区の二つの区役所でパネル展を実施しました。また、火葬場と墓地の二つの啓発動画を作成し、ユーチューブに掲載しているほか、協議会のツイッターアカウントを開設して情報を発信したり、資料の右上に掲載しましたキャッチコピーやロゴマークの作成と活用、そして、3月には広報さっぽろに関連記事が掲載されております。

資料の真ん中の令和4年度の取組をご覧ください。

パネル展については、昨年度も実施した区役所での開催を拡大する予定です。また、昨年度は新型コロナウイルスの感染状況を考慮して中止としましたチ・カ・ホでのパネル展を開催いたします。それから、新たな動画を作成し、ユーチューブへ投稿するほか、区役所のモニターで放映する予定でおります。また、ツイッターアカウントについては、フォロワー数500件という参考指標も掲げておりますので、更新頻度や内容などを検討し、継続的に発信してまいりますほか、アイデア段階ではありますが、地下鉄駅のサイン広告や新たなデザイン物などがあれば、市立大学との連携も図ってまいりたいと考えております。

資料の右側の令和5年度以降の取組をご覧ください。

まず、出前講座についてですが、札幌市役所では、職員が地域の方々に市の取組をご説明する各種出前講座を実施しております。近年は新型コロナウイルス感染症の影響で開催できていない状況ではありますが、今後は徐々に再開していくことと思っておりますので、プログラムの検討などの準備を進めてまいります。

また、出前講座とは別の名前になるかと思いますが、委員の皆様が専門家として直接市民に同じように講座を行っていただくのもよいかと思っております。これは皆様のご意見をいただいてからと思いましたので、来年度以降の取組に入れております。ただ、可能であれば今年度に前倒して準備を進めていくことも可能かと思っておりますので、ぜひ皆様からご意見を頂戴したいと思っております。

それから、シンポジウムの開催については、委員の皆様、あるいは、皆様のご存じの方から講演をいただいた後、パネルディスカッションを行うことで、市民の方々の葬送に関する理解が一層深まるものと考えております。

また、啓発グッズについては、出前講座やシンポジウムへの参加者などを対象に配布することを前提として作成するのもよいかと考えています。ポケットティッシュや今であれば使い捨てマスクにチラシを同封し、啓発につなげていきたいと思っております。

さらに、これもアイデア段階ではありますが、動画の放映場所について、最近タクシーやバスにモニターが設置されておりますので、それを活用したり、保健所のほかの部署では、映画館において放映前のコマーシャルを活用する取組もごございます。

もちろん、費用の面も考えていかなければなりません、現段階で事務局として考えていることは以上でございます。委員の皆様はノウハウをお持ちのことと思っておりますので、ぜひご議論をいただければと思います。

○石井会長 今後の意識醸成の取組についてご説明をいただきました。いろいろなことに取り組む計画となっております、協議会の委員の皆様にも積極的にご協力いただき、意識醸成に広く取り組んでいきたいということかと思っております。

せっかくですし、これ以前のことで構いませんので、一言ずつコメントをいただけるとありがたいです。

佐々木委員からお願いします。

○佐々木委員 すごく具体的になってきたなと感じています。チ・カ・ホでのパネル展については委員として具体的にどんな形で参加するのかなというのが気になりました。

○石井会長 前にも参加していただいた経過があったかと思えます。いろいろな方が関わることができるのだったらそれはそれでいいと思うのですが、もし事務局から今のご質問に対して補足があればお願いします。

○事務局（中村企画担当係長） 資料3をご覧ください。画面にもお示しいたします。

一番下の段に備考の欄がありまして、真ん中の9月2日から5日のところにパネル展開催とありますが、こちらは会場をもう押さえてございます。新型コロナの影響を考えなければいけません、よっぽどのことがない限りはこの期間で実施する予定としております。

パネル展では掲示したところに担当の職員や委員の皆様を配置する予定であり、来場者にご説明したり質問をお受けしたりする場面で委員の皆様のお力をいただければと考えております。

○石井会長 澤委員、いかがでしょうか。

○澤委員 令和3年度を取組のところに清田区と南区の2区でパネル展を実施したとあります。私も見に行こうと思っていたのですが、行けなかったのですね。ですから、掲示してみて、市民の方の反応はどうだったのか、見ていた人はいるのかをお聞きしたいと思います。また、そのときに使ったパネルを見せていただければ、データでもいいので、どういうものを展示したのかを見てみたいなと思いました。

○石井会長 事務局からコメントをお願いします。

○事務局（小山内生活環境課長） 区役所のパネル展については2区でやりまして、私は1区しか行っていませんが、清田区は、正面玄関から入ってすぐのところにパネルを配置させていただきました。濃淡はあるものの、何かなどご覧になっていた雰囲気はあったというのが私の実感です。

また、パネルについては、電子データで送ることができますので、こういうものを提示しましたということで、後ほど委員の皆様へ情報提供させていただきたいと思います。

そして、ほかの区についてはこれから場所を決めるのですが、区役所の中でもパネルを展示させてもらえる場所が決まっているので、多くの人に見てもらえるところに設置することを考えていきたいと思っています。

○石井会長 高橋委員、いかがですか。

○高橋委員 以前、パネル展を計画していて、清田区ではやられたのですが、チ・カ・ホのものはコロナで中止になった経緯もありますので、今年度はぜひ実施していただきたいと思っています。その中で、今回の墓地部会や火葬場部会の方、葬儀関係の方、そして、遺産などの法律関係の方たちなども呼んで、相談ができるような場所をつくっていただくと広まるのではないかと考えております。

また、出前講座についても、市の職員だけでなく、今回の葬送関係の人たちも交えて、質問のある人のお話を聞けるようなスペースをつくっていただくと大変いいかなと感じたところです。

そして、私のところの霊園では、年に1回、利用されている方の全員に会報を送っています。札幌市役所でも、お金はかかってしまいますけれども、今回、あり方検討委員会もやっていますし、新料金の話もあるので、旧設墓地などを利用されている方にアンケートを取ったり、お墓に対してさらに興味を持ってもらえるような情報を提供していただければ、新しい取組も進んでいくような気がしています。送料はかかるはずなので、大変かと思いますが、そういうことも意識の中に生まれていいのではないかなと思っています。

また、この中にユーチューブなどがありますが、札幌市の公式LINEというものもありまして、これを調べてみたら、友達が15万354人、フォロワーが10万3,449人とかなりの人数なのですね。こちらの方に向けて、パネル展をやっていますよ、こういうことに取り組んでいますよというのをLINEから知らせてはいかがかと思います。

これにはお金がかかりませんよね。効果は分かりませんが、どこかでイベントをやるときには積極的にお知らせをしていけるのかなと思うのです。これと同じ理由で札幌市のツ

イッターやフェイスブックなどがあるのだと思うので、こちらも活用したらいいのかなと思いつながら札幌市の公式LINEを見ていました。

それから、オーロラタウンには前に休憩できる場所があったのですが、そこが全部パネルになっていて、情報を流せるかなり大きいスペースがあるので、そういうところで情報を発信すれば、興味がある方に見ていただけるのではないのかなと思っています。この間、オーロラタウンを歩いていたらすごく変わっていたので、ぜひ活用されたらいいのではないかなと思ったところです。

○石井会長 多岐にわたりご提示をいただきました。できるところはぜひやっていきたいと思います。出前講座やシンポジウムについては、この委員の皆様にもむしろ積極的にご参画いただいて進めていくと聞いていますので、ぜひよろしく願いいたします。

福田委員、お願いします。

○福田委員 今話題に出ました出前講座やシンポジウムなどに関し、考えたことを幾つか提案させていただきます。

私としては、市単独の事業もちろん進めていかなければいけないのでしょうけれども、ほかの団体との提携や協定も大事ではないかなと思っています。具体的に言いますと、例えば、札幌市社会福祉協議会では、「わたしの生き方セミナー（終活セミナー）」とあって、エンディングノートや遺産相続といった終活関連だけでなく、健康関連や仲間づくりなど、いろいろな要素を取り交ぜたセミナーを行っておりますので、こういうところから1コマをお借りして、葬送に関することの啓蒙や普及をすることも考えられるのではないかなと思います。

その連想で言えば、例えば、札幌シニア大学や各区の高齢者教室、それから、言い忘れましたけれども、社協というのは各区にありますので、そういうところとの連携も考えられないのかなと思っています。

また、手前みそというか、私も関わったことで、恐縮ですけれども、民間団体や企業との連携もあっていいのかなと思っています。例えば、北海道新聞では、今年の2月19日と20日というかなり寒い時期に札幌市内のホテルで「みんなの終活フェア」を行っております。いろいろな講座を繰り広げたり、ブースを設けていろいろな企業の方々に出展していただくという催しだったのですが、20講座に2,300人の参加があり、主催者団体はかなり手応えを感じています。主催者は新聞社で、後援として道と札幌市が名前を連ねていましたが、直接の参加などはありませんでしたよね。次にやるのであれば、こういうことも検討したらどうかと思います。

もう一つ、これは将来課題ぐらいかなと思っていますのですが、比較的若い世代にもこういうことを理解してほしいですね。ですから、すぐにはなかなかできないかもしれませんが、例えば、札幌市内の高校や大学、専門学校を対象に、課外学習みたいな格好で札幌市内の葬送事情はこんな感じだよということを出前講座風に行ってもいいのかなと感じています。

日本年金機構では、年金は非常に大事であるということで、高校生や大学生を対象にした年金セミナーを全国的に展開してきたという経緯があります。また、今後の多死社会や成年年齢が引き下げられたことを考えると、一般的な学校の授業だけではなく、課外学習のような格好で、死生観や死の教育というのは少しオーバーですけれども、若い世代にもこういうことを理解してもらうことが必要ではないかと思うのです。やるとすれば、札幌市立の高校や大学あたりがターゲットかなと思うのですが、こういうことも行く行くは考えたほうがいいかなという気がしております。

○石井会長 続きまして、中島委員からお願いいたします。

○中島委員 遅れまして、すみません。

私たちの組合は、札幌市のこういう事業に対して全面的に協力をするということについて、我々組合員の中でも了承を得ておりますので、チ・カ・ホ関係についても、また、パネル展についても、我々が持っている情報を札幌市に提供させていただき、市民の方にかなり広く告知させていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

○石井会長 ぜひ全面的なご協力をお願い申し上げたいと思います。

今回が初となります北原委員からご発言をお願いいたします。

○北原委員 北原と申します。今回が初めての参加でして、これまでの経過を十分に踏まえていないところではありますが、初見の印象を申し上げさせていただきます。

お墓に関しては無縁墓や合葬墓の問題、そして、斎場では友引開場の問題など、私も個人的に気になるようなテーマについていろいろと検討されているのだなということを知りまして、何とかいい方向に進めていっていただければなというのが正直なところです。

いろいろな課題も多く、特に風習にも絡む事柄ですので、一筋縄ではいかないのかなという気もいたしますが、施設が効率よく、そして、市民の納得が得られる形で運営されていく方向を見つけていただければと考えています。

○石井会長 おっしゃったようなしがらみもあるかと思いますが、この協議会は、割とフランクに自由に議論しながら方向づけしていこうという形で進んでおりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

古本委員からご発言をお願いできればと思います。

○古本委員 まず一つは、例えば、意識醸成の中でもパブコメの資料を見れば分かりやすいのですが、1か月の中で、結局、20代、30代、40代からの提出が少なく、コメントをしてきているのは50代以降で、全体の総数を見ても、やっぱり札幌市民のこの問題についての意識が低いと言わざるを得ないですね。ですから、この方向性の中では、行政、自治体がもう少し攻める形で教育活動や研修活動をしたほうがいいと思うのです。

というのも、官民連携、官民協働というのは言われて久しい中で、パネルの展示やSNSの利用、出前講座というのは、ほかの自治体でも各分野でこれまでずっとやってきていることなのですね。そうではなくて、そこから踏み込んで、例えば、この分野の中でも異業種の企業の中に入り込んでコラボレーションができるのかどうかということです。特

に、この関連分野でいけば、環境教育との関係は非常に結びつきが強いはずなのですよね。ということは、環境を扱っている業種、企業との関係を基点にしながら、より組んだ中で独自の企画をやるということです。

特にSNSで引っ張ってこられる人たちと一般的なパネル展示や出前講座を求める階層というのは大体分かれていて、SNSに長けている階層というのは若者なのです。一方で、SNSにあまり長けていない階層として特に顕著なのは高齢者ですが、そういう人たちは、対面式、フェイス・トゥ・フェイスであるパネル展示や生涯学習に対しての接近が強いと一般的には言われています。この自治体の教育や研修活動というのは、その両方を組み合わせているのだけれども、そこから踏み込んでいないのですね。ですから、もう少し踏み込んで、関連企業や異業種の企業とのコラボ活動をしていかないと、ベースになる基点の醸成がなかなかできてこないのです。ベースができれば、そこから発展し、環境関係やSDGsのものが生まれてくると思うのです。ただ、現状としては、パブコメを見ただけでも、やっぱり熟成の期間としては難しいのだろうと感じました。

もう一つは、将来的な考え方として、次世代を担う人材の育成、また、この問題に対して意識を持つ人間の育成を考えたときには、やはり若年層を取り込む必要があると思います。そうすると、小学校、中学校の道徳や社会科関係の授業に札幌市のこの問題をいかに取り込んでいけるかという一つの提案もあるのではないかなと思います。学校教育とのコラボレーションということです。特に、次世代に発展的な展望を見いだすためにも、若年層、お子さん方を取り込む、そして、お子さん方を取り込むと家族を取り込める可能性が高まるので、家族にその話題を持ち込めるような環境づくりというか、もう少し踏み込んだ教育活動や研修活動が必要なのではないかなと私自身は思っています。

○石井会長 民間や異業種との連携による対応とSNSを活用した若者への啓発というご指摘でしたが、私も特に若い世代にどう啓発するかというのは非常に重要な項目だと思っています。福田委員からもご提案がありましたので、まずは幾つか試しにやってみて、手応え等を見ながら進めていければと思いますし、事務局も、当然、我々を巻き込んだ形でご検討していただいて、ぜひ推進できればと思います。

桃井委員、お願いします。

○桃井委員 資料に記載していただいている意識醸成の各取組については、一般的に考えられる手法を網羅的に取り上げて実行に移すことを考えられているのかなと思います。

その中にもう少し加えていくとすると、先ほどの福田委員や古本委員のお話にもあったとおり、人生の最期のイベントに向けて、葬送を長いスパンで考え、意識を醸成していかなければいけないと思いますので、やっぱり学校教育との連携についてはもう少し考える余地があるのではないかなと思っております。

現状がどうなっているかを認識しないで発言してしまって申し訳ないのですが、やっぱり、小中高のそれぞれの段階に応じて、それぞれの扱い方によって関心や意識を持っていただくようなことを途切れずにやっていくことが若い人の意識を醸成する上では重要な

ではないかなと思っておりますので、学校教育との連携については今後さらにご検討をいただければと思います。

○石井会長 学校教育についても考えながらぜひ進めていただければと思います。

今、山上委員がおられないようなので、上田委員からお願いいたします。

○上田委員 私からは2点ほどありまして、ほかの委員の方がおっしゃっていた意見に近いと思います。

一つ目は、先ほど古本委員もおっしゃっていたのですが、札幌市の事業として、一方通行で情報を提供するだけではなく、逆に皆さんの話を聞くことができたらいいなと思っています。それは、この中のメニューで言うと、シンポジウムに当たるのかなと思います。委員が登壇してこちらからお話をするというより、今の協議会がもう少し広がったような、協議会の延長線上にあるような、先ほど福田委員がおっしゃっていたように、いろいろな関係者が意見を交換したり、情報を共有したりする場がもっとあってもいいのかなと思います。

この協議会では、かなり限られた人間だけが集まって、札幌市の葬送、墓地や埋葬系の行政について意見交換を行っていますが、これに関連する方々はたくさんいらっしゃるのので、市民というより、むしろそういった関係者の皆さんと札幌市として葬送をどうやって扱っていくかについて意見を交換する場を設けるなどして、協議会を少し拡大した版みたいなことができるのではないのかなと思いました。

二つ目ですが、今までの墓地部会では、お墓というのは、亡くなった方だけではなく、今生きている市民の方の場所としてもっと活用されるべきではないかという議論が結構あったと思っています。また、世の中も公園墓地の方向に動いていってございまして、その中で、お墓で開催する、お墓に人を呼ぶような企画があるのです。ですから、チ・カ・ホではなく、市営墓地でやっては駄目ですかね。お墓に市民の人を集めて行うような企画がもっとあってもいいのではないのかなと思うのです。

私が研究している日本が多磨霊園をつくる際に手本にしたドイツのハンブルクにあるオールスドルフ墓地でも、オールスドルフ2050とあって、そこで市民みんなで将来のお墓の在り方を議論しているのです。別にそれは議論の場でなくてもいいと思うのです。何だったら、私は、公園でやっているプレーパークみたいなものでもいいと思うし、先ほどの古本委員や桃井委員のお話でいけば、小学校の遠足の場所を墓地にするでもいいと思うので、お墓に人が来るような企画をもう少し考えてもいいのではないのかなと感じています。今生きている人たちがお墓をどう使うかを考えるきっかけになるようなことができればまた違った議論ができるのかなと思いますし、意識醸成にもつながっていくのではないかなと思うので、そういうことを企画してみたらいかかと思えます。

また、もう一個だけ言うと、私たちが最初に議論していたあり方基本構想には「多死社会を不安なく迎えるために」というサブタイトルがついているのですよね。今の意識醸成の話では葬送に関する行動をしている市民の割合を増やすという成果指標があるので、葬

送に関する行動をすることが目的になってしまいそうな感じがするのです。ただ、当初、この議論の根本にあったのは多死社会を不安なく迎えるためにということなので、もう少し広い視点でいろいろなことを行ってもいいのではないかなと思ったところです。

○石井会長 幾つかご提案をいただいた中で、特に墓地を我々の活動の舞台として、普通の場所として位置づけ、いろいろなことをやるという発想は、ある種、死を日常化するような流れにもつながると思うので、我々がそういうことに先駆的に取り組んでみるというのは案外意味があるかなと私も感じました。それこそ、どこかの霊園を活用してシンポジウムをやるということも、やりようとしてはインパクトがあるかと思うので、ぜひ具体的なことを考えていければと思います。

一通りコメントをいただきましたが、私も皆さんが言ったことに尽きると思っています。

○上田委員 石井会長、山上委員が戻られています。

○石井会長 失礼しました。山上委員、最後に一言、コメントをお願いします。

○山上委員 中座して申し訳ないです。全く議論に参加していなかったもので、特にコメントはございません。

○石井会長 広く意識を醸成していくことを考えたときには、やっぱり若年世代にどう認識してもらおうかというところが非常に重要だと思います。いろいろな方から具体的な話が出ておりましたので、改めて申し上げますが、そこを大きな重点に据えて、特に教育現場など、押さえようのあるところから考えていきたいなと思いました。

それでは、皆さんのご意見を踏まえて具体的な取組を整理し、また動いていくことにしたいと思います。

本日の議事は以上となりますが、全体を通してご質問やご意見がございましたらお受けします。いかがでしょうか。

○古本委員 今の上田委員のご指摘は、すごく勉強になるし、海外事例を持ち込むということは自治体の方々も切実に受け止めてほしいと思います。

国内だけではなく、海外も含めて、いろいろな事例があるわけですね。そういう事例を参考にどんどんと取れ入れていき、そして、札幌市として最大限の効果を生むために何ができるのかという手法を考えていくことだと思うのです。いろいろな会議をする、それをアウトプットする、そして、それをいかに効果的に出すかということがものすごく大事だと思いますし、自治体においても調べる能力がより必要になってくるのだと思います。

すごく興味のあるいいご指摘だったと思いますので、改めて感謝を申し上げます。

○石井会長 上田委員はこの分野に関する様々な事例等をご承知かと思うので、事務局としてもそういうことをもう少し掘り起こしていただきたいと思います。しゃくし定規にやっても意識は浸透しないと思いますし、我々の今の常識から少し変わっているくらい取組をやったほうが皆さんへの普及がより実現するかと思います。今のご意見はそういうことについてのご指摘かと思うので、ぜひ参考にさせていただければと思います。

ほかはいかがでしょう。

(「なし」と発言する者あり)

○石井会長 事務局から何かございましたらご発言をお願いします。

○事務局(中村企画担当係長) 事務局から今後のスケジュールについてご説明いたします。

現在、皆様に部会のスケジュール調整のメールを送っておりますので、ご協力をお願いします。既にご回答をいただいた委員の皆様は、ありがとうございました。会議の日程が決まりましたら、また改めてお知らせをさせていただきます。

冒頭にご説明しましたように、次の総会は12月の開催を予定しており、その中で今年度の取組状況のご報告をさせていただきます。その後、年明けには第2期の協議会が発足となりますので、こちらについても改めてご連絡を申し上げます。

事務局からは以上です。

3. 閉 会

○石井会長 まずは、それぞれの部会を開いて具体的な対応を決めながら、今年度はどう動いていくかを議論していただくこととなります。その上で、次期協議会をどうするかという話も今年度中にあるということですので、ご理解をいただければと思います。

いずれにしても、皆様のご協力の下で今年度の事業を推進することになろうかと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、これもちまして第4回総会を閉会させていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

以 上